

1 組織

- (1) 東京都立上野高等学校学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 副校長及び総務主任 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務主任兼務）、主幹教諭（生活指導主任兼務）、
主幹教諭（進路指導主任兼務）、主幹教諭（総務主任兼務） 計7名
- (4) 協議委員の構成
学校法人教務本部長、近隣中学校長、塾経営者、近隣寺院住職、近隣町会会長、同窓会副会長、P
TA会長 計7名

2 平成27年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 平成27年6月22日（月） 内部委員7名、協議委員7名

授業参観、協議委員委嘱、委員紹介（自己紹介）、平成26年度学校運営連絡協議会実施報告、平成27年度学校経営計画報告、本校の現状と課題の説明、評価委員の選出、協議

第2回 平成27年11月24日（火） 内部委員6名、協議委員7名

授業参観、生徒による授業評価についての検証、学校評価について、評価アンケート案検討、本校の教育活動についての現状分析とその対応、協議

第3回 平成28年3月4日（金） 内部委員6名、協議委員6名

平成27年度教育活動報告、学校評価アンケート結果報告、協議

- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

評価委員については、広く評価について意見を伺う趣旨で、協議委員全員に兼務をお願いすることとした。

第1回 平成27年6月22日（月） 内部委員7名、協議委員7名

評価委員の選出、学校評価の趣旨説明

第2回 平成27年11月24日（火） 内部委員6名、協議委員7名

学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察

今年度の学校評価の実施に向けた検討

第3回 平成28年3月4日（金） 内部委員6名、協議委員6名

学校評価アンケート中間まとめの報告、次年度の学校評価の実施に向けた内容検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価アンケート実施方法

①学校評価の観点

学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、部活動・特別活動、健康・安全に対する指導、施設・設備及び読書活動の計8項目について、各々4段階で評価してもらった。

生徒用、保護者用、教職員用及び地域用のアンケート集計結果をそれぞれ別紙1～4に示す。

②アンケート調査の実施時期・対象・規模

12月 生徒 953人／953人（回収率 100%）

12月 保護者 677人／953人（回収率 71%）

12月 教職員 56人／56人（回収率 100%）

12月 地域 29人／29人（回収率 100%）

(2) 評価結果の概要

①学校運営に関すること

学校運営に関する自由記述は生徒が 11 件、保護者が 38 件。保護者の方からは、「学校生活の様子がわからない」14 件、「上野高校に満足している」8 件、「自由な校風が失われる」7 件。

本校の教育目標、学校運営方針と日々の教育実践との関連性が保護者に十分伝わるように引き続き努力していく。保護者会や PTA 総会、授業公開等を継続して実施し教育実践の内容を伝えていく。

学校生活の肯定的評価は、生徒約 8 割、保護者 7 割と良好な結果。生徒がより充実した学校生活を送れるように、保護者と連携をはかりながら、今後もよりよい教育活動を目指していく。

②学習指導に関すること

学習指導に関する自由記述は生徒 9 件、保護者 22 件、教員 2 件。そのうち、授業に関するご意見・ご要望が生徒 8 件、保護者 13 件。「勉強合宿が良かった」、「国際化の時代なので英語教育に力を入れてほしい」、「家庭学習がしっかりできるようになった」、「成績下位層も引き上げてほしい」、「定期考査後のフォロー学習が不足している」などの意見があった。

生徒、保護者は 7 割以上が肯定的評価だが教員と乖離がある。生徒にとって分かりやすく達成感のある授業づくりを今後も学校運営の柱に据えていく。また、個々の理解度を把握するとともに、難易度を上げかつ分かりやすい授業となるよう、学校全体の研修会、模試分析会、授業クリニック、授業評価アンケート、教科ごとの教員研修を強化し、一人一人にきめ細かな指導ができるよう授業改善を図っていく。今後も、保護者との連携を強化し、家庭学習、学習習慣の確立に努めていく。

③生活指導に関すること

生活に関する記述は生徒 17 件、保護者 22 件、教員 1 件、地域 4 件。生徒からは「理由もなしにダメはやめてほしい」、「学校行事で生徒を主とするのは素晴らしい」などの意見があった。保護者からは、「方向転換はもっと緩やかに」、「自由な校風を大切に守り続けてほしい」、「先生から子供扱いされずに、適度にかかわってくれてよかった」などがあった。

生徒が安心して学校生活をおくれるよう、いじめや暴力行為が発生しないよう実態把握（アンケートの実施）や対応策を組織的に推進している。また、遅刻指導や身だしなみ指導など社会人として基礎となる力を身に付ける様、継続的な指導を実施していく。今後も明確な指導方針を示し、指導の充実を図る。

④進路指導に関すること

進路指導に関する自由意見は、保護者 13 件、教員 1 件。保護者からは、「進学のための経済的な面を含め、三者面談をきめ細かく実施してほしい」、「三者面談で手厚い指導を受け、嬉しく思いました」などの意見があった。

保護者との連携については、生徒・保護者の肯定的な評価が 6 割とやや低い結果。三者面談期間の時期や実施方法など工夫していく。今後も、進路指導計画に関する説明を丁寧に行い、保護者とともに、生徒の進路希望の形成と実現に向けた取組を強化する。本校の進路指導では、大学への進学指導のみならず、キャリア教育を推進し、生徒が人生設計に基づき、進路実現に向け積極的に取り組めるよう系統的な指導を行っていく。

⑤部活動・特別活動に関すること

部活動・特別活動に関する自由意見は、生徒 1 件、保護者 12 件、教員 1 件、地域 1 件。保護者からは、「部活がハードすぎる。運動をする程度でよい」、「部活に専門的な指導者をおいてほしい」などの意見があった。

生徒の 7 割以上は肯定的な評価で、概ね良好な状態である。部活動や学校行事をホームページに掲載するなど生徒の活躍を発信してきたが、今後さらに充実させる。ホームルーム活動については内容が多岐に亘るので内容ごとに明確な目標を設定するなど効果的な学習法を目指す。部活動・学校行事については、人間性を向上させるためになお一層力を入れて取り組む。

⑥健康・安全に対する指導に関すること

健康・安全に関する自由記述は、保護者 3 件、地域 2 件。保護者からは、「玄関のセキュリティを改善してほしい」、「入学当初のカウンセリングが安心感を得た」、「台風時の対応があいまいだった」などの意見があった。

学校安全計画に基づき、セーフティ教室、宿泊防災訓練、保健便りによる啓発活動などを行っている。多様化する生徒へのきめ細やかな対応、支援は、スクールカウンセラーを中心として組織的に迅速に対

応している。今後も、職員個々の教育相談に関するスキルの向上をめざし、校内研修を実施する。また、生命の尊重や健康安全に対する意識を高めるための取組は恒常的に実施する必要があることから、昨年度から継続している取組を検証しながら、より実践的な避難訓練など危機管理意識が向上できる取組を推進する。さらに、来年度からは、気象警報発令時の登下校についてや、カウンセリングの受け方など日常の健康・安全に対する指針がすぐわかるよう生徒手帳を発行する。

⑦施設・設備に関すること

施設・設備に関する自由記述は、生徒 25 件、保護者 12 件、教員 3 件。生徒、保護者双方から「トイレが汚い」、「雨漏りが改修されていない」などの意見があった。

創立 91 年目を迎え、学校施設・設備全体は老朽化が否めないが、日頃の清掃活動や速やかなメンテナンスにより、整備に努めている。今年度はトイレの一部改修(洋式化や扉)や自習室の整備を行った。老朽化の部分で大規模な工事が必要なものについては中・長期的な視野で検討していく。

⑧読書活動に関すること

図書館利用・読書指導に関する自由意見は、生徒 6 件、保護者 4 件ありました。生徒・保護者双方から「蔵書数が少ない」、「読書習慣が身につけていない」などの意見があった。

未読者を取り巻く環境として身近な読書体験が少ないという傾向がみられることから、より一層、学校、家庭、地域、図書館における読書環境の整備や家庭への啓発が必要である。今年度は、各教科等における文章理解や調べ学習等の指導の工夫、書評合戦(ビブリオバトル)への参加、図書員会の活動などにより改善に努めたが、現状では、未読者率の改善にはまだ遠い状態である。今後はさらに、学校図書館を利用しやすくするためのレイアウトの工夫や生徒の興味・関心を高めるためのコーナーの設置等の整備に努める。また、ホームルームや授業を通して読書から得られる効果を伝え、本質的な読書指導の推進を図っていく。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

①学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・広く教育について充実した協議ができた。
- ・本校の教育活動の成果を共有化できた。
- ・生活態度(頭髪・服装・挨拶等)について、率直な意見を聞くことができた。
- ・進学実績向上の現状把握と今後の課題について協議できた。
- ・授業や家庭学習についてのアンケートで生徒の学習の実態や授業に対する評価がわかった。

②学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・進学実績のさらなる向上を図る必要がある。
- ・家庭学習の習慣づけを、学校・家庭が連携協力して行う必要がある。
- ・生活指導の充実をより一層図る必要がある。(服装指導・頭髪指導・マナー指導等)
- ・地域への広報活動をより一層進めていく必要性を認識できた。
- ・学校行事の精選をする必要性が明確になった。
- ・教師と生徒のコミュニケーションを充実させきめ細かな指導をおこなう必要性を認識できた。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

- ①学校運営 地域に本校の教育活動を積極的に公開し、地域との連携を強化して、学校評価や様々な提言を生かした学校運営を推進する。
- ②学習活動 「学力スタンダード」に基づいた授業改善を行うとともに、補講・補習や講習を一層充実させ個に応じた学力向上と、進学に向けた学旅行の向上を図っていく。
- ③特別活動 「協調性・社会性」、「忍耐力・根気」や「自主性」を養うためにも、行事や部活動を一層充実させる。
- ④生活指導 段階的な指導により、生活指導の徹底を図るとともに社会性・規範意識を育成し、自転車通学のマナーや交通安全指導について一層重点的に指導していく。

⑤進路指導 キャリアガイダンスをはじめ、キャリア教育を推進し、生徒が自らの将来を考え個性や適性に合った進路を選択できる力を育てていく。
進学アドバンス校として国公立大学、難関私立大学の進学実績の向上を図る。

⑥地域連携 教科「人間と社会」での体験活動や宿泊防災訓練や地域行事への参加をはじめ、様々な地域との交流活動をさらに推進する。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

①協議委員 7 人

②学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
7						

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人

8 その他

- ・ 保護者・地域住民のさらなる協力を求めていくためにも、今年度のアンケート結果・改善策を保護者全世帯、地域に配布等を行う。
- ・ 地域住民の意見の中に服装・頭髪等身だしなみに対する意見が見られる。生活指導の充実、生活指導方針の周知を行う必要がある。
- ・ アンケート項目の精選、表現の工夫、質問意図の明確化をさらに進めていく。
- ・ 自由意見欄の記述は参考になる意見が多かった。